エ　商品化と生産物の管理・評価
オ　機械・施設の利用
(5) 野菜の生産と経営
ア　生産目標と経営計画
イ　生産工程の管理
ウ　流通と販売
エ　地域環境に配慮した野菜生産
(6) 野菜生産と経営の実践

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。
ア　野菜の生産から消費，経営までの仕組みと野菜の利用形態を理解できるよう留意して指導すること。また，プロジェクト学習では観察や実験・実習を通して，科学的かつ創造的に学習を進め，野菜生産に関する実践力が身に付くようにすること。なお，地域農業の実態や学科の特色等に応じて，適切な題材を選定すること。
イ　〔指導項目〕の(1)については，科目学習の導入として扱うこと。また，(6)については，(1)を踏まえ，(2)から(5)までと並行して，又はそれらを学習した後に扱うこと。
(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。
ア　〔指導項目〕の(1)については，農業科に属する他の科目と関連付けながら科目全体で科学的かつ創造的に学習を進めるように扱うこと。
イ　〔指導項目〕の(2)については，野菜の生産及び需給の動向について基礎的な内容を扱うこと。
ウ　〔指導項目〕の(3)については，生育過程，生理作用，栽培環境と生育の調節や環境に配慮した野菜栽培の技術について基礎的な仕組みを扱うこと。
エ　〔指導項目〕の(4)については，品種の選定，栽培計画の立案，生育段階に応じた栽培管理，商品化と生産物の管理・評価などについて体系的に扱うこと。
オ　〔指導項目〕の(5)については，生産目標の設定と経営計画の立案，農業生産工程管理，販売方法の工夫，生産費や流通手段などについて基礎的な内容を扱うこと。
カ　〔指導項目〕の(6)については，野菜経営に関する実践的な活動を行うこと。なお，起業や六次産業化に関わる内容についても扱うこと。

第7　果樹

1　目　標

農業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，果実の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 果実の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
(2) 果実の生産と経営に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
(3) 果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2　内　容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。
〔指導項目〕
(1) 「果樹」とプロジェクト学習
ア　果実生産と経営に関するプロジェクト学習の意義
イ　プロジェクト学習の進め方
(2) 果実生産の役割と動向
ア　果実生産の役割
イ　生活と果実の利用
ウ　果実の流通と需給の動向
(3) 果樹の特性と栽培技術
ア　果樹の種類と特徴
イ　果樹の生育と生理
ウ　栽培環境と生育の調節
エ　品種改良と繁殖
(4) 果樹の栽培と管理・評価
ア　品種の特性と選び方
イ　作型と栽培計画
ウ　栽培管理
エ　商品化と生産物の管理・評価
オ　機械・施設の利用
(5) 果実の生産と経営